

幼稚園教諭の資質向上のための カリキュラムに関する研究

白石 敏行

A Research on Improving of Professional Development Programs for Kindergarten Teachers

SHIRAISHI Toshiyuki

(Received July 30, 2004)

キーワード：幼稚園教諭，資質向上，カリキュラム

はじめに

教員養成系大学・学部では、教員としての資質を高めるためのカリキュラムの整備が必要である。特に、教育実習をはじめとする教育・保育現場での体験を通じた学習は極めて重要である。

このことに関して、幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書（2002）の「Ⅱ 幼稚園教員の養成・採用・現職の各段階における課題と展望」では、「1 養成段階における課題と展望」として、(1) 養成段階における基本的視点、(2) 教員志望者自身の多様な体験・得意分野の素地の形成、(3) 実践力の育成、(4) 教員養成のための教育環境の充実、(5) 上級免許状の取得、免許状及び資格の併有、(6) 幅広い幼稚園教員志望者の確保、の6つの点について述べられている。

教員養成系大学・学部としては、上記に挙げられているすべての点を考慮し、教員養成教育ならびに現職教育を行っていくことが必要であるが、ここでは本研究（教員養成）に関連する3点について詳細に記述する。

(1) 養成段階における基本的視点

教員養成段階では、幼児の総合的な発達を促すため、幼児理解に基づき、遊びを通じて総合的に指導するという幼稚園教員の基盤的な専門性を養成することが、まず取り組むべき重要なことである。その際、教員が具体的に保育を構想し、実践する力の基盤を形成することが求められる。

(2) 教員志望者自身の多様な体験・得意分野の素地の形成

少子化や都市化など社会の様々な変化もあいまって、柔軟性やたくましさ具备了な教員になるために必要と考えられる、自らの生活体験や自然体験、社会奉仕体験などが不足している者も、教員志望者の中には、見受けられる。学生の自主的活動などを奨励し、多様な体験を得る機会を増やすことが望ましい。

また、多様な体験を基礎としながら、特技や自らの関心事項を深めることも、将来、教

員として得意分野を育成していく素地を形成し、本格的な得意分野の育成に努める現職段階への円滑な移行を図るという観点から、適当と考えられる。

(3) 実践力の育成

採用されて間もない教員の中には、実践力の基礎に欠ける者が散見される。在学中に幼稚園の現場を経験する機会が教育実習以外にほとんどなく、幼稚園教諭という職業のイメージをつかみ、理論と実践とを結びつける機会や、教員志望者自身の豊かな生活体験が欠けている点が課題と考えられる。

養成機関においては、大学改革の一環などで、カリキュラムの検討や授業に関する評価制度を通じて、実践的な指導力に対するニーズへの対応の改善に努めることが重要である。そのためには、養成機関が、幼稚園との連携を強化し、幼稚園現場からのニーズをもとに、カリキュラムや授業のなかで理論と実践を結びつけることや、学生に、早い段階から、インターンシップなどにより幼稚園現場での実践を経験する機会を与えることなどの工夫をすることも重要である。

このような報告がなされる以前から、幼児教育コースでは、「子どものことは子どものいる場所で学ぼう」と考え、附属幼稚園と連携をしながら、実践力に優れた幼稚園教諭を養成するためのカリキュラムの運営にあたってきた。

具体的には、1年次の「新入生セミナー」（前期：金曜日／1・2時限）では、7月に2回程度（場合によっては1回）の保育参加（登園から遊び時間まで）、2年次の「保育内容環境」（前期：木／1・2時限）・「保育内容人間関係」（前期：木／3・4時限）では、6・7月に2・3回程度の保育参加（登園からお弁当まで）、3年次の「幼児教育基礎実習」（前期：水／1～6時限）では、6・7月に3回程度の保育参加（登園から降園まで）をそれぞれ実施している。

そして、これらの経験をもとに、3年次では附属幼稚園での3週間の教育実習、4年次では公立幼稚園での2週間の教育実習をそれぞれ行っている。

さらに、上記の保育現場での学習をより充実させるため、専門科目として、1年次前期には「新入生セミナー」と並行して「幼児教育基礎」を学習し、後期には「保育内容基礎」、「幼児心理理解」を学習し、幼児を理解するための基礎的な知識を身につけられるようにしている。2年次では、「保育内容環境」、「保育内容人間関係」のほか、「保育内容言葉」、「保育内容表現」、「保育内容健康」を学習し、3年次の「幼児教育基礎実習」を履修する前までに保育内容5領域についての学習を終えるようにしている。そして、これらの学習を踏まえ、3年次の教育実習に臨めるようにしている。

さらに、4年次では、これまでの学習および教育実習等で見い出された課題をテーマとして「卒業研究」に取り組んでいる。なかには、附属幼稚園の子どもたち、保育者および保護者を対象に実験・調査等を行う者もいる。

このような理論と実践のバランスのとれた実践力に優れた幼稚園教諭を養成するようにカリキュラムを整備しているが、いくつか課題も残されている。

そこで、本研究では、実践力を育成するために取り組んでいる専門科目（1年次の「新入生セミナー」、2年次の「保育内容環境」・「保育内容人間関係」、3年次の「幼児教育基礎実習」）に関する調査ならびにそれらの学習ために必要な授業科目（授業内容）を調査し、課題を明確にすることによってさらなるカリキュラムの充実を図ることを目的とする。

アンケート調査

幼児教育コース学生43名（1年生：13名，2年生：9名，3年生：10名，4年生：11名）に対してアンケート調査（資料参照）を実施し，回収できた38名（1年生：11名，2年生：8名，3年生：9名，4年生：10名）を分析対象とした。回収率は，88.37%であった。

（1）授業評価

まず，学生がこれらの授業をどのように受けとめているのかを知るために，1年生は「新入生セミナー」，2年生は「新入生セミナー」，「保育内容環境」・「保育内容人間関係」，3年生・4年生は「新入生セミナー」，「保育内容環境」・「保育内容人間関係」，「幼児教育基礎実習」について，5段階で評価（過年度に履修している場合には，振り返って評価）してもらい，その結果を表1に示した。表1のように，いずれの授業もおおむね高い評価であった。

なお，年度によっては，事情により保育参加を行っていない場合があり，そのため表1に示すような回答者数となった。

表1 授業評価の平均値とSD

開講時期	授業科目名	平均	(SD)	回答者数
1年次前期	新入生セミナー	3.94	(.98)	36
2年次前期	保育内容環境・保育内容人間関係	4.07	(1.03)	15
3年次前期	幼児教育基礎実習	4.43	(.94)	14

表1の結果をさらに学年別に分析した結果を，図1，図2，図3にそれぞれ示した。

① 新入生セミナー

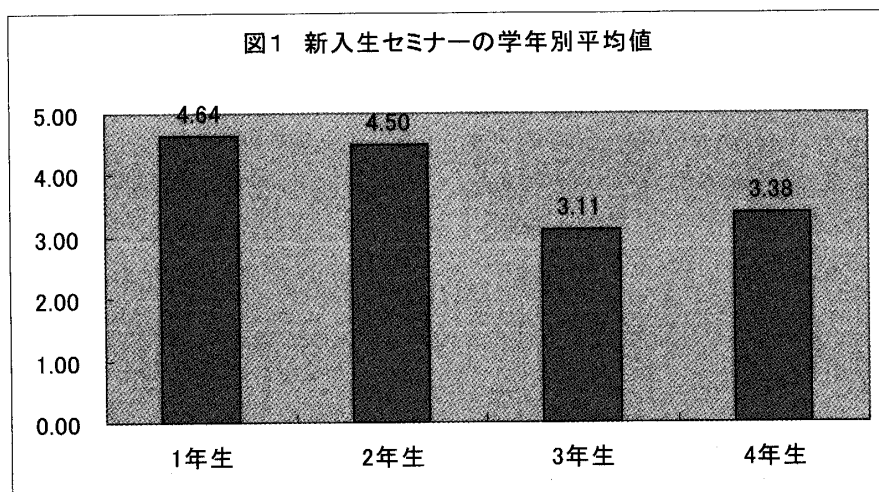


表1に示したように，「新入生セミナー」の全体平均値は3.94（SD=.98）であったが，学年別に分析したところ，1・2年生は4.50以上の非常に高い評価をしているが，3・4年生はそれを1ポイント以上下回る3.50以下の中程度の評価であった（図1参照）。

これは，1・2年生にとって「新入生セミナー」の保育参加が，入学してはじめて幼稚

園の現場での体験であるため、非常に強いインパクトを受けたからであると考えられる。他方、3・4年生は、より内容の充実している3年次の「幼児教育基礎実習」や3・4年次の教育実習を経験しているため、それほど高い評価をしなかったのではないかと考えられる。

② 保育内容環境・保育内容人間関係

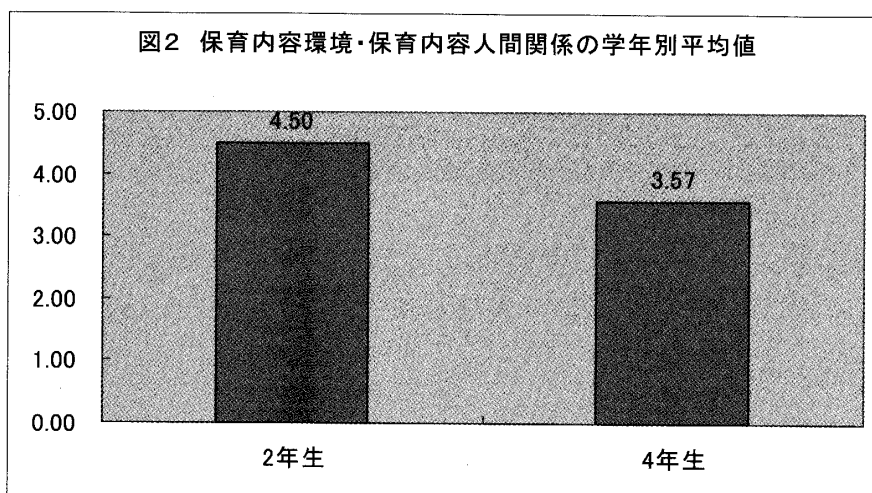


表1に示したように、「保育内容環境」・「保育内容人間関係」の全体平均値は4.07 (SD=1.03)であったが、学年別に分析したところ、2年生では4.50と非常に高い評価であったが、4年生では約1ポイント下回る3.57と中程度の評価であった(図2参照)。

これは、「新入生セミナー」と同様に、4年生が3年次に「幼児教育基礎実習」、教育実習を履修しているため、このようなちがいが生じたのではないかと考えられる。

③ 幼児教育基礎実習

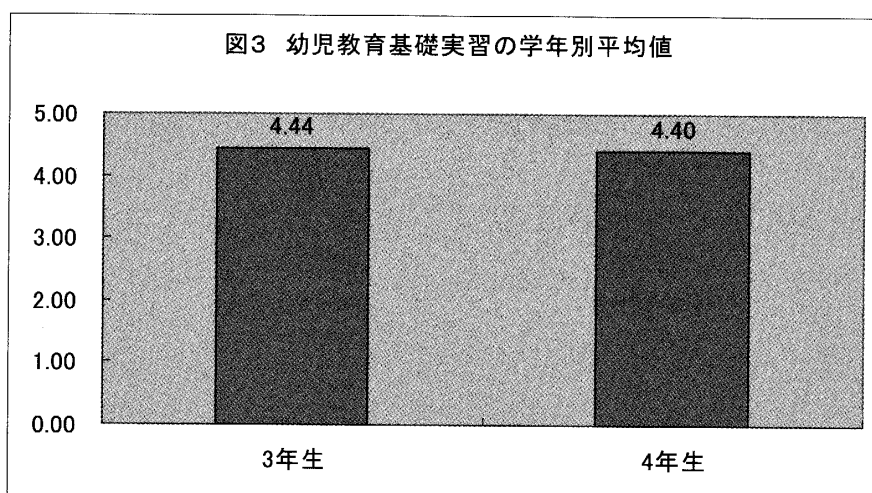


表1に示したように、「幼児教育基礎実習」の全体平均値は4.43 (SD=.94)であったが、学年別に分析したところ、3年生が4.44、4年生が4.40とほぼ同値で、いずれも高い評価であった(図3参照)。

これは、「幼児教育基礎実習」が「新入生セミナー」、「保育内容環境」・「保育内容人

間関係」に比べて比較的長時間保育参加でき、またそれまでに子どもや幼稚園についての学習を積み重ねているので、少し余裕をもって学習ができたからであると考えられる。

(2) 評価の理由

次に、それぞれの授業の課題を探るために、評価した理由の分析を行った。評価の理由は授業および学年ごとにまとめ、それぞれ表2、表3、表4に示した。評価の理由はできるかぎり回答者の記述をそのまま用い、肯定的な内容には○、否定的な内容には●をつけて分類した（なかには、分類が難しい内容もあったが、いずれかに分類した）。

① 新入生セミナー

表2 「新入生セミナー」の評価の理由

学年	評 価 の 理 由
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育について、さらに興味を深めるものになったと思う。実際に幼稚園に行ってみて、子どもたちの様子を見ることができ、保育者になるやる気がいっそう増してよかった。 ○子どもたちの様子を思い浮かべながら他の授業を受けることができてよかった。 ○現場で先生や幼児たちの様子を見ることができ、やる気がでた。 ○自分の足りないものや目標とするところがわかった。 ○園児たちと接することができ、いろいろなことを発見することができた。 ○初めての實習でわからないことも多かったが、学んだことも多かった。とてもいい経験になった。 ○一度だけの保育参加で学ぶことも多かったが、その後、少し経ってもう一度保育参加があれば、学んだことも役に立つと思われる。 ●時間の都合で仕方ないことだとは思われるが、實習の日数、時間などが少なく、物足りない。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの自分の方向性・興味のあることについて考えることができた。 ○何もかもはじめて聞くことばかりで、幼児教育についてさまざまな知識や体験が得られるのですばらしい時間を過ごせた。 ○回数は少なかったが、初めて幼稚園に教師の卵として行ったので、よい経験ができた。 ○幼稚園の構造をみながら、幼児と接することができた。 ●ほとんど何の知識もない状態で、初めての實習だったので、緊張してしまった。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○初めて保育の現場が体験でき、子どもと直接触れ合うことができた。 ○園の雰囲気を知ったり、子どもとのふれあいを楽しめた。 ○どのように子どもと接してよいのかわからず、戸惑うこともあったが、楽しかった。 ○幼稚園に行く、幼児とふれあうことが初めてで、とても貴重な体験であった。 ●回数も少なく時間も短かったので、あまり多くは学べなかつた気がする。 ●十分に接することができなかつた。 ●話すことが大まかだったので、先輩の話を聞く機会やもっとく深いことを知りたい。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○本当に基礎を学ぶいいチャンスである。 ○これから「がんばろう」という気持ちになる。 ●幼稚園に行く機会が少ない。

「新入生セミナー」では、入学して間もない7月に保育参加を行っており、肯定的な理由にみられるように、これから学習して4年後には幼稚園教諭になる（幼児教育に携わる仕事に就く）という意識、やる気を高めている。また、自分なりに課題を見出し、今後の学習の動機づけとなっている。このことは、本コースが「新入生セミナー」のねらいとしていることでもある。

しかし、否定的な理由にもあるように、保育参加の回数が少なく、時間が短いという不満もある。実際、保育参加できるのは2回程度で、しかも子どもが登園してから遊び始める1時間程度と短い。

これにはいくつかの原因が考えられる。まず、幼稚園で保育参加を行う場合に、保育時間が原則として4時間なので午前中に設定しなければならないこと、大学から附属幼稚園までの距離が離れているため移動に時間がかかること、1年次の授業のほとんどが専門科目以外の授業（共通教育科目）であるため、「新入生セミナー」の次の授業の開始までには大学に戻らなければならないこと、などが挙げられる。

これらの問題を解決するためには、次の授業に支障が生じないように、「新入生セミナー」の次の時間は授業を入れない。これには学生の承認が必要であり、他の授業との関連もありきわめて難しい。そのほか、1年次に限り附属幼稚園以外の大学近くの幼稚園・保育所での保育参加を検討することも必要である。あるいは、土曜日の保育参加も検討の余地があるが、おおむね幼稚園は土曜日は休園なので、隔週で土曜日やっている幼稚園での保育参加となるが、これも難しい。

② 保育内容環境・保育内容人間関係

表3 「保育内容環境」・「保育内容人間関係」の評価の理由

学年	評 価 の 理 由
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○少しでも幼稚園に行けるのはありがたい。 ○環境に注目してみる子どもと、人間関係に注目してみる子どもは違うということを感じた。 ○環境とのかかわり、コミュニケーションのとり方など、知識を入れた後、すぐに実践ができたので、より内容を深めることができた。 ○幼児とたくさんかかわることができたし、先生方からいろいろなお話を聞かせていただき、よい体験となった。 ○より専門的な知識をもって臨めるので、余裕をもつことができた。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○受容や共感について理論的なことから、友達同士で試すなど、実習に向けての準備になった。 ●ただの実習という感じで、授業独自の目的などがなかった。

「保育内容環境」・「保育内容人間関係」は、本コースの専門科目であるため、教員間で調整をして、同一日の午前中に連続して開講しているため、登園からお弁当を食べる時間くらいまで保育参加が可能である。そのため、「新入生セミナー」に比べて、回数・時間に関する不満はほとんどなく、自分なりの視点をもって保育参加に臨んでいる。

しかし、運用上の問題として次のような問題が生じている。両科目は「幼稚園教諭免許

状」を取得するために必要な科目であるため、連続して履修している本コース所属の2年生だけではなく、いずれか一方の授業しか履修していない他のコースの学生も含まれている。これらの学生には、前後の授業に支障がない場合を除き、保育参加は原則として認めず、保育参加当日は休講とし代替措置をとっている。

そのため、これ以上保育参加の回数を増やすことは、これらの学生に対する授業の保障もあるので難しい状況である。

③ 幼児教育基礎実習

表4 「幼児教育基礎実習」の評価の理由

学年	評 価 の 理 由
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○それまでの半日保育とは違って、長期にわたり子どもとかわることができた。 ○子どもの内面をみることができ、園のことをよく知ることができた。また、自分の保育のあり方について考えさせられた。 ○幼児と生活を共にすることで、さまざまな発見や幼児とかわる楽しさ、魅力を十分に感じることができた。自分の目標が明確になる機会だった。 ○何回か行くことによって、幼稚園の雰囲気もわかり、慣れていくことによって、子どもの動き、先生の動きを理解することができ、基礎実習(教育実習)に入っていくことができた。 ○実習前に子どもの名前、性格、園内の環境を知ることができ、少し慣れて教育実習に臨むことができた。 ●回数が少ないので、もっと行けたらよい。 ●もっと実習の日にちを増やしてほしい。
4年	記述なし

「幼児教育基礎実習」では、1年次の「新入生セミナー」、2年次の「保育内容環境」・「保育内容人間関係」で保育参加を経験していること、これまでの授業で子どもや幼稚園のことを理論的に学習していること、保育参加の時間（登園から降園まで）が十分に確保されていることなどから、自分なりの視点をもって子どもをじっくりみたり、幼稚園の一日の流れや保育者の仕事等も併せてみるので、教育実習の事前学習として十分に機能していると考えられる。

教育実習をはじめとする保育現場での学習（実践）を充実させるためには、その前後の学習（理論）が極めて重要である。そこで、実際に、事前学習・事後学習としてどのような授業科目（授業内容）を必要としているのかを尋ねた。

(3) 事前学習

保育現場で学習するために、事前に学習しておけばよかったと思われる授業科目として挙げられたのは、「保育内容（環境・人間関係・言葉・表現・健康）」、「保育学」、「児童学」、「幼児教育方法技術」、「幼児心理理解」、「幼児カウンセリング」であった。また、授業科

目ではないが、具体的な内容として挙げられたのは、実践できる音楽・手遊び、壁面構成、ピアノ、絵本の読み聞かせ、指導案の作成の仕方、造形表現、幼児との接し方、幼児とのコミュニケーションのとり方など、実践にすぐに生かせるものを中心であった。

具体的な内容として挙げられたもののなかには、今後授業のなかで履修する内容も含まれているが、これらを参考にして、授業のなかで取りあげていくようにしたい。

また、「保育学」、「児童学」（本コースの関連科目）は、1・2年次に開講されている科目と時間が重複しているため、3年次まで履修できなかったとの指摘もあり、時間割の調整も併せて検討しなければならない。

（4）事後学習

保育参加を終えて各自がいろいろな課題をもって、それ以降の学習に取り組むことになる。その際、どのような授業科目・授業内容を望んでいるのだろうか。

まず、授業科目としては、「幼児心理理解」、「身体表現」が挙げられた。また、具体的な内容として、幼児とのコミュニケーションのとり方、幼稚園の環境づくり、トラブルへの対応のしかた、壁面構成、幼児への言葉かけ、指導案の作成、幼稚園教育要領について、ピアノや弾き歌い、手遊び、実習中の具体的な疑問を振り返る、などが挙げられた。

これらの内容は、上記（3）事前学習で挙げられたものとほとんど同じである。要望として挙げられた内容のうち、取り入れられるものに関してはできる限り早急に取り入れ、学生にもわかるような形でカリキュラムの改善に努めなければならない。

まとめ

（1）カリキュラムの課題

教員養成系大学・学部では、理論と実践を結びつけ、系統立てて学習できるカリキュラムを整備する必要がある。幼児教育コースでは、上述したように、「子どものことは子どもがいる場所で学ぼう」と考え、カリキュラムを改善してきた。

その結果、「新入生セミナー」、「保育内容環境」・「保育内容人間関係」、「幼児教育基礎実習」で保育参加を実施することになった。これらの授業に対する評価は、おおむね高い評価を得ているが、上述したような運用上の問題もいくつか残されている。

さらに、大きな問題として、もっとも実践の学習として大切な「教育実習」で見出された課題等を直後（3年次後期）に学習するためのカリキュラムが十分に整備されているとはいえないことが挙げられる。現在、本コースでは、教育実習を終了すると、「幼児教育」、「保育内容の研究」、「幼児心理」の3分野のなかから所属研究室を決定し、課題を解決していくと共に興味・関心のあることを追究できるように支援している。いまのところはこのような対応しかできていないのが実情である。せっかく教育実習で課題意識・学習意欲が高まっているにもかかわらず、きわめて残念なことである。早急に、カリキュラムの検討をする必要がある。その際、アンケートに回答された事前学習・事後学習の内容を参考にすることも忘れてはならない。

他方、授業として具体的な内容を反映させていくことも必要であるが、授業以外に自らが積極的に見出した課題を自ら解決できるように努めることも必要である。

また、保育参加の時間・回数を確保するためには、上述した以外に、クォーター制を導

入するなどのカリキュラムの柔軟な運用も必要である。

(2) 二重履修の問題

教員養成系大学・学部において教育実習はきわめて重要な役割をしているが、その一方で、他の授業を受けながら教育実習を行わなければならないという問題も生じている。教育実習に臨むための大切な授業であるにもかかわらず、教育実習のためにそれを欠席せざるを得ないということは、結果的に教育実習の質的な低下を生じさせることになるかもしれない。特に、現在、複数の免許状を取得する者が多く、教育実習の連続という学生も少ない。この問題はきわめて深刻である。

このような、問題を解決するため、ある大学では、3年次の夏季休業中に教育実習（基本実習）を行っている。これによって、他の授業との重複は避けられる。しかし、9月は学校行事が多く組まれており、実習の受け入れが困難な場合が多い。したがって、このような方法を用いる場合には、大学と実習先との綿密な協議が必要である。4年次は、ほとんどの者が卒業単位を満たしているため、それほど配慮の必要ないかもしれないが、3年次の教育実習には理論的なことを十分に学習して臨んでほしい。なぜなら、教育実習は、これまで学んだ理論を実践の場で生かす貴重な機会だからである。

(3) 附属校園との連携

教員養成系大学・学部において教員養成のためのカリキュラム運営には、附属校園は欠かせない存在である。本コースのカリキュラム運営においても附属校園の多大な協力のもとに成り立っている。そして、さらなるカリキュラムの充実を図るためには、お互いの立場を尊重し信頼関係を深め、かつお互いの持ち味を生かしながらカリキュラム運営にあたる必要がある。

たとえば、もうすでに取り組みされているところもあるが、上述のような本コースの保育参加の回数・時間の確保が難しい場合には、実践面に優れている附属校園の教員に授業を分担してもらうことも必要である。そのためには、平素からの附属校園との連携がきわめて重要である。

最後に、今回のアンケート調査の結果を実践の場を提供してくださった附属校園と協議し、学生の要望にできる限り応えられるようなカリキュラムの運営を行いたい。

引用文献

幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書 2002 文部科学省

(参考資料)

アンケート調査のお願い

幼児教育コースでは、1年次から附属幼稚園をはじめとして保育現場で子どものことを学ぶカリキュラムを設けていますが、さまざまな課題をかかえているのも事実です。

そこで、みなさんの率直な意見を伺い、それをできる限り反映した形で、次年度以降取り組んでいきたいと考えています。趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

なお、アンケート用紙は、2月12日（木）までに白石研究室のドアポケットにご投函ください。

平成16年2月 幼児教育教室

回答者：学年：（ ）年

Q1 各学年の保育現場に行く授業科目名を挙げていますが、その授業内容に対する評価を5段階でお願いします。併せて、評価の理由を具体的に記述してください。

回答は、履修したすべての授業科目についてお願いします。

学年	授業科目名	評価	評価の理由（自由記述）
1	新入生セミナー	1・2・3・4・5	
2	保育内容〔環境〕 保育内容〔人間関係〕	1・2・3・4・5	
3	幼児教育基礎実	1・2・3・4・5	

Q2 保育現場で学習するため、事前に学習（履修）しておけばよかったと思われる授業科目（または授業内容）を具体的に記述してください。

〔授業科目名（授業内容）〕

Q3 保育現場での学習の後、さらに子どもや保育現場に関する理解を深めるために、どのような授業科目や授業内容があれば、いいと思いますか？ 具体的に記述してください。

〔授業科目名（授業内容）〕

Q4 上記Q1に示した授業に要望等を具体的に記述してください。